NATIONAL MUSEUM of ASIAN ART

PRESS RELEASE

2022 年 10 月 6 日

スミソニアン協会国立アジア美術館（フリーア美術館／サックラー・ギャラリー）
2023 年に行う 100 周年記念プログラム決定
アジア地域の芸術と文化理解を深める特別展、フェスティバルなど
次の 100 年に向けて多彩に展開

国立アジア美術館は、来年 2023 年に開館 100 周年を迎えます。この記念すべき区切りにあたり、2022 年 11 月からの 1 年間、アジアの芸術と文化への理解を深め、新たな観客を獲得するための一連のイベントやプログラムを開催します。100 周年のテーマは「旅（Journeys）」。グローバルかつローカルに活動する、「進化する美術館」を伝える多数のプログラムを展開します。

アメリカで 5 月に設けられている「アジア・太平洋諸島系米国人の文化遺産継承月間」に合わせ、2023 年 5 月 1 日から 5 月 13 日までの 2 週間にわたり、当館初の大規模なフェスティバルを開催し、100 周年記念事業の中核として位置づけます。

フリーア美術館は、チャールズ・ラング・フリーアから寄贈された約 9,500 点にもおよぶ美術品を基に設立され、1923 年に米国初の国立美術館としてその門を開きました。以来 100 年間にわたり、世界で最も重要なアジア美術コレクションの構築に努め、数多くの展覧会を開催することで、アジア美術史、保存修理、保存科学の分野をもリードしてきました。当館の豊富な収蔵品には 19 世紀から 20 世紀初頭のアメリカの重要なコレクションも含まれ、アジア美術とそれらを直接対話させるものとして、アメリカ、アジア、中東を結ぶ創造的な協働と文化交流に必要不可欠な機会を提供し続けており、現在にいたるまで常に新たな作品の蒐集に努めています。

次の 100 年に向けた第一歩を迎えるにあたり、当館は保存、キュレーション、学術の分野における強みをさらに発展させる取り組みを行います。

Smithsonian

「国立アジア美術館は、一世紀近くにわたり、アジア美術とアメリカとの関わりについて、より深く理解し評価を育むために不可欠な役割を担ってきました」とスミソニアン協会のロニー・バンチ長官は述べています。「100 周年は、スミソニアン協会の過去を振り返り、未来に向けて、我が国のコレクションの範囲と影響力を拡大するという、より大きな目標のために大変貴重な機会です。私たちは、この記念すべき年に来る 100 年への軌道を設定して、皆さまを美術館にお迎えします。」国立アジア美術館のチェイス・R・ロビンソン館長は、「100 周年は、当館とスミソニアンにとっての節目となるだけでなく、これからの 100 年に向けた新たなきっかけとなるでしょう」と述べました。「私たちのヴィジョンは、国立アジア美術館を、幅広い層の来館者がアメリカと交差するアジアの芸術と文化を賞賛し、学び、交流できるスペースに変えることです。次の 100 年には、美術館は芸術を通じて、集い、学び、考え、つながりを築く空間となるのです。」

＜100 周年企画のラインナップ＞

当館は、次の 100 年において、アジアの芸術と文化、それらと米国との関わりを理解するための、国内外における中心的な役割を担います。100 周年での一連の展示、プログラム、フェスティバルなどは、アジア社会との相互依存がますます進む世界において、芸術と文化に関わることで生まれる深い尊敬と真の異文化理解を育むという、国内外からの要請に応えていきます。
また、「旅（Journeys）」というテーマには、長年美術館に親しんでいる方も、初めて訪れる方も、それぞれの道、それぞれの方法で、当館とアジアの多様な芸術的伝統に触れ、楽しんでいただく展示を目指す意図も込められています。

常設展示

新しい常設展示は、100 周年を迎えた美術館の力強さと同時に、親しみやすく分かりやすい美術館への移行を伝えています。

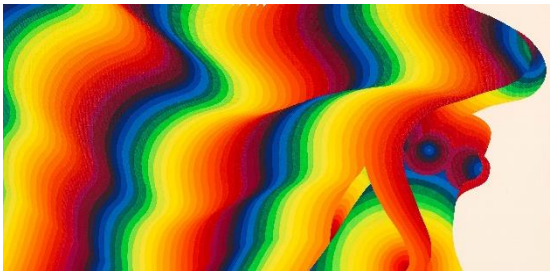
- 創立以来の当館唯一の常設展示で、長く来館者を魅了してきたジェームズ・マクニール・ホイッスラーの「孔雀の間」が新たに修理保存され、チャールズ・フリーアの意図したとおりに配置されました。この部屋では、アジアの作品や美学と対話するアメリカのデザインが提示され、来館者をその創造の旅へといざないます。
- 10 月 15 日にオープンする「フリーアの国際的ネットワーク：アーティスト、コレクター、ディーラー」は、当館創設時のコレクション形成に貢献した、多くの声や視点に焦点を当てています。
- 2023 年 4 月に、美術館導入部となる新たなホールがオープンし、アジア芸術に触れるためのツールとなる作品を展示します。現代作家の声も取り入れながら、収蔵品の重層的な歴史と現代との関連性への理解を促します。
- 2023 年夏には、近現代美術に特化したギャラリーを新たに設け、映像を中心とした 4 つの展覧会が開催される予定です。

主な企画展

100 周年記念の中心となる 3 つの展覧会は、最先端のデジタル技術と没入型展示を駆使し、次の 100 年へのヴィジョンを推し進めます。

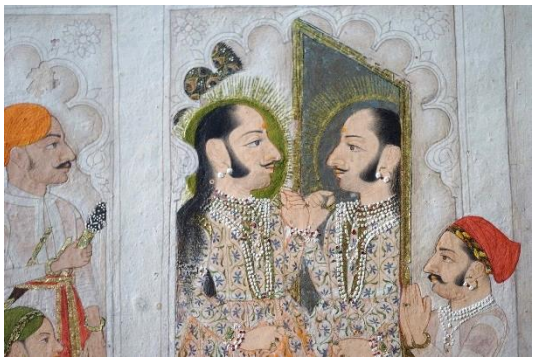
- 「靉嘔： 愉快な虹の地獄」（2023 年 3 月 25 日～2023 年 9 月 10 日）

  「虹のアーティスト」として知られる靉嘔は、体験型の作品や、鮮やかな虹の美しさを際立たせたシルクスクリーン版画で世界的に知られています。靉嘔作品に特化した展覧会は米国初で、本展の図録は、靉嘔の作品に関する英語による初めての出版物になります。作品展示に加え、双方向型技術を駆使した体験型展示で、来場者に靉嘔の世界を存分に体験いただく予定です。



- 「素晴らしい土地～ロイヤルウダイプールの絵画」（11 月 19 日～2023 年 5 月 14 日）

  マハラナ・オブ・メワール慈善財団が運営するウダイプール市立宮殿美術館の協力のもと、インドのラジャスタン州にあるウダイプール市の絵画を展示します。著名な実験映像作家アミット・ダッタによる環境音景（サウンドスケープ）が、地元の風景、湖、宮殿を中心とした絵画の感覚的要素を際立たせます。同時開催のプログラムでは、水に対する文化的な考え方を探求し、さらにインドとワシントン D.C.における環境レイシズム、資源管理、気候への懸念について考えます。



- 「安陽：中国古代の王都」（2023 年 2 月 25 日～2024 年 4 月 28 日）

  古代中国の殷王朝の首都・安陽をテーマとする米国初の大規模な展覧会です。当館が所蔵する 200 点以上の作品を通じて、3000 年以上前の殷王朝とその都に住んだ人々の芸術的達成を検証します。数々の受賞歴を持つ制作プロダクション「UNIT9」との共同開発によるデジタル・アクティベーションも展開します。

公開プログラム

2023 年 5 月 1 日から 13 日まで、当館とその周辺のナショナル・モールでは、講演、パフォーマンス、インタラクティブ体験、飲食コーナー、コミュニティプロジェクトなどを通じてアジアの芸術と文化を楽しむ空間を提供します。これは、アジア・太平洋諸島系米国人の文化遺産継承月間において博物館が主催する、初めての大規模なフェスティバルとなります。

フェスティバルの一環として、ワシントン・パフォーミング・アーツと米空軍音楽隊の協力のもと、中国人排斥法の時代に、当時の移民がサンフランシスコのエンジェル島収容所の壁に書いた詩にインスピレーションを受けて、著名な作曲家ホァン・ルオが制作したオラトリオ「エンジェル・アイランド」が演奏されます。また、1920 年代の無声映画や、琵琶奏者ミン・シャオ・フェン の生伴奏もお楽しみいただきます。

年間を通じて行われる 2023 年の「旅（Journeys）」をテーマとする公開プログラムでは、新しい形のストーリーテリングを試み、来館者やスタッフが自らの体験を共有する機会を設けます。また、年間を通じて、映画制作者の目を通して旅をする映画シリーズも開催されます。また、ピューリッツァー賞受賞作家のヴィエット・タン・ングゥイェン（Viet Thanh Nguyen）や、ラヴィ・アガウォル（Ravi Agarwal）、マールボロ音楽祭の参加ミュージシャンたち、上海カルテットなどの現代アーティスト、多数のアジア大使館や文化センターと協働します。

なお、ノウルーズ（春分の日で、イラン暦の元日）、ディワリ（ヒンディー暦の祝日でインドのお祭り、10 月または 11 月の 5 日間）、全米桜祭り（3 月～4 月）、旧正月（中国・台湾・韓国などで祝われる旧暦の正月、1 月後半から 2 月前半ごろ）などといった年中行事も、文化的慣習を通じた旅と言えるでしょう。

100 周年記念事業の一環として、当館では多数の学術プログラムを開催しており、美術館のあらゆる分野に関する主要なシンポジウムを主催しています。さらに、当館の公式ウェブサイトのデザインを一新し、デジタルストーリーテリング、インタラクティブ機能、レクチャーシリーズなど、誰でも、どこでも、100 周年記念の「旅（Journeys）」に参加できる機会を提供します。

国立アジア美術館の 100 周年記念事業のさらなる詳細は、決定次第随時発表される予定です。詳しくは、美術館のウェブサイトをご覧ください。Instagram：@natasianart、Twitter：@NatAsianArt、Facebook：@NatAsianArt、　ハッシュタグ：#NatAsianArt　#TheNext100

<報道関係者からの問い合わせ先>

国立アジア美術館 広報東京事務局　富樫・大原

TEL: 03-3237-3124 / E-mail: freer@annex-inc.jp / 携帯: 080-5443-1112

＜国立アジア美術館について＞

米国スミソニアン協会国立アジア美術館は、アジアと世界に対する理解を深めるために、美術品の保存、展示、研究、解説に力を注いでいます。中国、日本、韓国、南アジア、東南アジア、イスラム圏の古代から現代までの作品を含む 45,000 点以上の収蔵品は、北米最大かつ最も包括的なアジア美術のコレクションの一つです。その豊かなコレクションは、アジアの芸術を 19 世紀から 20 世紀初頭のアメリカの重要なコレクションと直接対話させ、アメリカ、アジア、中東の間の創造的なコラボレーションと文化交流に不可欠なプラットフォームを提供しています。1906 年の寄贈をもとに 1923 年に開館。米国内外の来館者、学生、研究者のための主要な情報源となっています。ワシントン D.C.のナショナル・モールに位置するこの美術館の展示室、研究所、アーカイブ、ライブラリーは、世界最大のスミソニアン博物館群の一部であり、通常、毎年 2700 万人以上の来館者を迎えています。12 月 25 日を除く年間 364 日、無料で一般公開されており、展示・プログラム・教育・アーカイブに、世界中の人々がアクセスできるようになっています。